

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	里山保全推進事業		
事業担当	環境部 環境政策課		
予算科目	01-040104-040000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	① <自然との共生> 四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等	平塚市環境基本条例		
対象・受益者	市民、事業者、行政などすべてのもの	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 市民、市民活動団体、大学、学校】		
目的・目標		事業の概要	
里山を復元するとともに、復元された里山を自然とのふれあいや憩いの場、また生産の場として活用し、自然環境保全活動が活発に行われています。		自然環境評価結果に基づき、西部丘陵地域の自然を保全するため、市民や市内の大学との協働による里山の手入れや里山モデル地区での活動などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	里山保全活動開催回数						単位	回
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の開催回数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		7	7	9	9	9	9	
	実績		7	9					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	里山保全活動参加者数						単位	人
	説明・算定式	里山保全協議会、大学交流、子ども環境教室の活動参加者数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		400	450	600	600	600	600	
	実績		363	578					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
里山保全協議会、庁内里山推進会議等を開催するとともに、下草刈り等里山の整備を行いました。また、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施するなど、自然環境保全活動が活発に行われました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 生活様式の変化や農家の高齢化等を背景に里山の管理が行き届かず、その恵み多き機能が失われてきています。里山の持つ多面的機能を次世代に引き継いでいくため、荒廃した里山の保全再生・活用を促進します。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 社会経済活動における便利さや豊かさの追求は、地球環境に大きな負荷を与え、地球温暖化対策が喫緊の課題です。継続的に実施される里山の再生、保全及び活用の活動は、地球温暖化対策に寄与するものです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 保全・再生する里山の範囲拡大に伴い、ボランティア組織の養成や活動団体への運営費及び資器材購入費補助制度の充実が望まれます。また、職員体制の見直しが急務です。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 行政による民地(山林)の賃貸借を発展的に解消します。また、県の支援制度の活用などにより、地域住民、市民活動団体等を主体とする活動体制への移行を目指します。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が欠かせません。地元住民の参加を得られていない状況を踏まえ、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的に開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図ります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			協議会の開催及び里山保全活動の実施	協議会の開催及び里山保全活動の実施	協議会の開催及び里山保全活動の実施	協議会の開催及び里山保全活動の実施	協議会の開催及び里山保全活動の実施	協議会の開催及び里山保全活動の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	526	446	624	624	624	624
事業費 (A)		0	526	446	624	624	624	624
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.70	0.69	0.69	0.69	0.69	0.69
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	5,874	5,790	5,766	5,766	5,766	5,766
フルコスト (A+B)		0	6,400	6,236	6,390	6,390	6,390	6,390

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 西部丘陵地域に残された貴重な自然環境を次世代に引き継ぐとともに、里山のもつ多面的機能の活用を図るため、市民との協働による里山保全モデル事業の推進及び検証を行うとともに、地権者や地元自治会の一層の理解促進に努めます。	
平成22年度 of 取組方針	
市民を主体とした継続的な里山保全活動の促進を図ります。また、事業説明会等により地権者や地元自治会との合意形成を図り、里山保全協議会への参加を促進します。また、保全計画に基づく里山の整備を進めます。	
課長コメント	市民活動団体や大学、地元自治会など、地域社会との協働によるモデルケースの事業促進及び事業検証を行うとともに、地権者や地元自治会との合意形成に努め、里山の保全・再生・活用を促進していきたいと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		用地交渉を重ね里山保全モデル事業用地を拡大した。組織体制の確立のため、地権者、環境保全団体、小学校、有識者、農業委員への参加を呼びかけ里山保全協議会を設立し、市民ボランティアと散策路の整備、下草刈り等を実施した。地元自治会、山林・農地地権者を対象に事業説明会を開催した。庁内里山推進会議では事業計画を研究した。市民大学交流事業や子ども環境教室を市民、大学、自然環境保全団体と協働で実施した。これらにより自然環境保全活動が活発に行われた。	里山保全協議会、庁内里山推進会議等を開催するとともに、下草刈り等里山の整備を行いました。また、市民、大学、自然環境保全団体と協働で市民・大学交流事業や子ども環境教室を実施するなど、自然環境保全活動が活発に行われました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が必須である。地元住民の参加を得られていない状況に鑑み、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的に開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図る。	里地里山の再生・保全活動範囲の拡大を図るためには、地元自治会や地権者の協力・理解が欠かせません。地元住民の参加を得られていない状況を踏まえ、土屋地区里山モデル事業を継続して実施する一方、説明会を定期的に開催し、情報提供等地域に密着した事業の実現を図ります。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		市民を主体とした継続的な里山保全活動の促進を図る。地元自治会や土地所有者の里山保全協議会への参加を促し、自然環境保全の必要性・重要性について、市民との合意形成を図るため、自治会及び地権者集会での事業説明会を随時開催する。また保全計画に基づき、里山の整備を進める。	市民を主体とした継続的な里山保全活動の促進を図ります。また、事業説明会等により地権者や地元自治会との合意形成を図り、里山保全協議会への参加を促進します。また、保全計画に基づく里山の整備を進めます。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	よみがえれ、ふるさとのせせらぎ事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
予算科目	01-080301-040000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、水辺利用者	事業期間	～平成21年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> あじさいの会 <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
地域の人が地域の川を知り、大切にすることをはぐくみ、水辺に親しむ環境づくりが進んでいます。		水辺に親しめる環境づくりのため、河内川で啓発イベントを開催し市民による施設の維持管理を目指します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	イベント回数						単位	回
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		3	3	3				
	実績		3	3					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	イベント参加者数						単位	人
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		100	130	150				
	実績		60	50					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	③：遅れている								
	遅れている理由	イベント実施日が他のイベントと重複しており、参加者が分散したため。							
平成20年度の主な取組と成果									
上流探検会1回、生き物調べ2回を実施しました。生き物調べを実施することによって水質調査が数値だけでなく実態として河川環境が改善されていることが理解出来ましたが、参加者数が目標に至りませんでした。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	河内川については、河川環境への関心が高くアジサイの植栽などの活動を通し市民ニーズは高いことから、必要性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	かつての「どぶ川」から地域活動により環境が改善されてきているおり、継続した活動をとおし更なる向上が見込めることから、有効性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	河川環境の向上を目的とし進めてきた事業であり、地域住民が継続して美化活動を行う必要があります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	地域住民との協働により河川環境を向上する必要があります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

今後に向けた課題の分析

少しずつではありますが、河川環境が向上してきています。今後は生き物調べなど地域住民が主体となって調査活動が行えるよう、地域を育成指導する必要があります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			調査・観察会の開催	調査・観察会の開催	調査・観察会の開催			
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	66	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	66	0	0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.46	0.46	0.56	0.00	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	3,860	3,860	4,680	0	0	0
フルコスト (A+B)		0	3,926	3,860	4,680	0	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input checked="" type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 神奈川県が実施している湘南里川制度へ移行するため、平塚市としての事業は終了となります。	
平成22年度 of 取組方針	
終了対象	
課長コメント	地域との協働で進めてきた事業であり、今後は神奈川県が主体となって湘南里川制度に移行完了することを期待します。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	③：遅れている
主な取組と成果		上流探検会1回、生き物調べ2回を実施。生き物調べを実施することによって水質調査が数値だけでなく実態として河川環境が改善されていることが理解出来たが、参加者数が目標に至らなかった。	上流探検会1回、生き物調べ2回を実施しました。生き物調べを実施することによって水質調査が数値だけでなく実態として河川環境が改善されていることが理解出来ましたが、参加者数が目標に至りませんでした。
検証結果	—	C：十分に成果をあげることができなかった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		少しずつであるが河川環境が向上してきている。今後は生き物調べなど地域住民が主体となって調査活動が行えるよう地域を育成指導する必要がある。	少しずつではありますが、河川環境が向上してきています。今後は生き物調べなど地域住民が主体となって調査活動が行えるよう、地域を育成指導する必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	終了
取組方針		継続して実施していく。	終了対象
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	—

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	水辺の散策路整備促進事業				
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課				
予算科目	01-080301-050000	事業種類	○ ハード	● ソフト	
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち			
	01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ			
	02	2 自然と親しめる場づくりを進める			
根拠法令等					
対象・受益者	市民、水辺利用者	事業期間			
委託、協働	【委託： <input checked="" type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 馬入水辺の楽校】				
目的・目標			事業の概要		
馬入橋から神川橋までの高水敷に水辺の散策路を整備し、川に親しめる環境づくりを河川管理者と進めています。			河川に親しめる環境づくりのため、河川管理者に水辺の散策路の整備促進を働きかけます。		

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	流域住民との検討会開催回数						単位	回
	説明・算定式	流域住民との検討会の実施回数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	2	3	3	3	3	
	実績		1	2					
活動指標②	指標名	国への要望回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	1	1	1	1	1	
	実績		1	1					
成果指標①	指標名	利用可能な水辺の散策路延長割合						単位	%
	説明・算定式	馬入水辺の楽校エリア内の散策路整備率							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		-	30	60	40	-	-	
	実績		-	0					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会を1回実施しました。また、国に対し散策路の整備延伸を協議し、その要望の結果、国が予算化しました。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	馬入の河川敷は不法投棄などの環境改善を目的とし花畑などの整備が国・県・市の事業として進めてきました。近年では、利用者も増加し、堤防道路との回遊性を持たせたルートの整備は必要性が高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	車椅子利用者やお年寄りのためにも、バリアフリー化を図る必要があることから、有効性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	「馬入花畑」や「水辺の楽校」エリアの利用者増加にともない、散歩やサイクリングなどの市民ニーズも高まっていることから、より一層の環境改善を図る必要があります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されていることから、国による整備を働きかけます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されており、今後の管理費用の増加が見込まれます。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			検討会の実施、国などへ要望書の提出	検討会の実施、国などへ要望書の提出	検討会の実施、国などへ要望書の提出、散策路等の維持管理	検討会の実施、国などへ要望書の提出、散策路等の維持管理	検討会の実施、国などへ要望書の提出、散策路等の維持管理	検討会の実施、国などへ要望書の提出
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	4	333	1,034	1,034	1,034	1,034
事業費 (A)		0	4	333	1,034	1,034	1,034	1,034
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.57	0.57	0.57	0.62	0.62	0.62
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	4,783	4,783	4,763	5,181	5,181	5,181
フルコスト (A+B)		0	4,787	5,116	5,797	6,215	6,215	6,215

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> バリアフリー化を進める必要からも継続した要望活動や整備に伴う管理費用の増加が考えられます。	
平成22年度 of 取組方針	
馬入花畑との一体的な管理によりフレキシブルな対応を図ります。	
課長コメント	上流域までの整備については、河川環境(不法投棄や不法耕作)等が解消された段階において整備することが望ましいと考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会の実施1回。国に対し散策路の整備延伸を協議した。また、要望の結果、国が予算化した。	馬入水辺の楽校で活動している地域住民等との意見交換会を1回実施しました。また、国に対し散策路の整備延伸を協議し、その要望の結果、国が予算化しました。
検証結果	—	A：成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		整備は国で行うが、維持管理は市で行うことが約束されており今後の管理費用の増加が見込まれる。	整備は国で行い、維持管理は市で行うことが約束されており、今後の管理費用の増加が見込まれます。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針		馬入花畑との一体的な管理によりフレキシブルな対応を図る。	馬入花畑との一体的な管理によりフレキシブルな対応を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	海岸浸食対策促進事業		
事業担当	まちづくり事業部 みどり公園・水辺課		
予算科目	00-xxxxxx-xx0000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、海浜利用者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
美しく広々とした砂浜が確保されています。		美しい海浜を確保するため、ヘッドランドや人口リーフ・養浜など、海岸浸食対策事業の推進を県に働きかけます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	県への要望回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	1	1	1	1	1	
	実績	1	1	1					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	ヘッドランド（横堤）整備進捗率						単位	%
	説明・算定式	県のヘッドランド事業における全体事業費に対する割合							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		68	81	90	95	100	-	
	実績		75.1	81					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
県への要望活動を行い、消波ブロックを設置しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平塚海岸の侵食対策であり、必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	ヘッドランドが延長されることにより、海岸侵食が抑制され泳げる海の延伸が期待できることから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input checked="" type="checkbox"/> その他	平塚海岸の侵食を防止し、さらなる保全を図る必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	今後も県に対して要望活動を行っていきます。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

県事業の進捗が図られていないため、侵食対策が遅れる可能性があります。また、養浜対策のため砂の確保が課題です。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進	海岸浸食対策の促進
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.16	0.16	0.16	0.11	0.11	0.11
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	1,343	1,343	1,337	920	920	920
フルコスト (A+B)		0	1,343	1,343	1,337	920	920	920

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 県への要望活動を引続き行います。	
平成22年度の実行方針	
県への要望活動を引続き行います。	
課長コメント	計画延長が出来るまで引続き要望活動を行っていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		県への要望活動を行った。消波ブロックを設置した。	県への要望活動を行い、消波ブロックを設置しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		県事業の進捗が図られていないため、侵食対策が遅れる可能性があります。また、養浜対策のため砂の確保が課題です。	県事業の進捗が図られていないため、侵食対策が遅れる可能性があります。また、養浜対策のため砂の確保が課題です。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		県への要望活動を引続き行う。	県への要望活動を引続き行います。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	自然観察園整備事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
予算科目	01-100504-030000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	01	①〈自然との共生〉四季を通じて豊かな恵みを与えてくれる自然と親しむ	
	02	2 自然と親しめる場づくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
市民が里山の自然環境に親しむ機会を多くもち、多様な環境学習を繰り広げています。		土屋地区の豊かな里山環境を、自然に親しむ場として、また環境学習を行う場として活かしていくため、既存緑地を活用した自然観察ウォーキングを催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	イベント開催回数						単位	回
	説明・算定式	自然観察ウォーキングなどの開催回数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		3	5	6	4	4	4	
	実績		4	3					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	イベント参加者数						単位	人
	説明・算定式	自然観察ウォーキングなどの参加者数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		50	100	100	40	40	40	
	実績		50	31					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	③：遅れている								
	遅れている理由	自然観察園整備事業は地元の理解と協力が欠かせないため、時間が必要です。							
平成20年度の主な取組と成果									
自然観察ウォーキングを2回、土屋子ども探検隊を1回、実施することにより、市民が里山の自然環境に親しむ機会をもつことができました。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民が里山の自然環境に親しむ機会を持つために必要です。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	自然観察ウォーキングなどの開催を継続することで、理解と協力の意識を高めます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	生物担当学芸員のできる範囲で事業を進めています。	○ 高 ○ 中 ● 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	関連各課と協働で事業を展開する必要があります。	○ 高 ○ 中 ● 低	

今後に向けた課題の分析

自然観察園の計画は地域の理解と協力が必要ですが、必要性和効果を理解していただくのに時間がかかります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			自然観察ウォーキングの実施	自然観察ウォーキング、ガイドマップの作成	自然観察ウォーキングの実施	自然観察ウォーキングの実施	自然観察ウォーキングの実施	自然観察ウォーキングの実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	292	42	42	42	42
事業費 (A)		0	0	292	42	42	42	42
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10	0.10
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	1,679	1,679	836	836	836	836
フルコスト (A+B)		0	1,679	1,971	878	878	878	878

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> ガイドマップを用いて、生物担当学芸員の受け持つ事業の範囲で実施します。	
平成22年度の実行方針	
ガイドマップの活用を図り事業を展開します。	
課長コメント	この事業を推進するためには、博物館独自の事業のほかに、関連した他課との協働事業を展開するのも、ひとつのあり方かと考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	③：遅れている
主な取組と成果		自然観察ウォーキングを3回、土屋子ども探検隊を1回、実施することにより、市民が里山の自然環境に親しむ機会をもつことができた。	自然観察ウォーキングを2回、土屋子ども探検隊を1回、実施することにより、市民が里山の自然環境に親しむ機会をもつことができました。
検証結果	—	A：成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		自然観察園の計画を進めるため、継続的な実施が必要である。	自然観察園の計画は地域の理解と協力が必要ですが、必要性和効果を理解していただくのに時間がかかります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	縮小して継続
取組方針		ガイドマップの活用を図り事業を展開していく。	ガイドマップの活用を図り事業を展開します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。